

立春を過ぎ、熊本では、春のような暖かな日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか。本日も、熊本労災病院のHPを訪れていただき、ありがとうございます。

立春とはいえ、能登を含む北陸地方はまだ寒さの中にあります。元旦の震災で、楽しいはずの家族そろってのお正月の中で突然に命を落とされた多くのかたのご冥福をお祈りいたします。また、避難所での生活など、日常とはかけ離れた厳しい生活を余儀なくされておられる多くの被災者の皆様に、心からお見舞い申し上げます。当院も、二度にわたり、厚労省からの派遣要請に応じて看護師による医療支援を行いました。DMAT 隊も出動予定でしたが、支援の縮小に合わせて継続待機となっています。東日本大震災の時は、私は熊本大学病院の院長をしており、発災から1週間程度経ったころ、当時の東北大学病院院長に電話をして医療支援の受け入れ可の答えをもらった後、派遣を自ら希望していた職員を、医師、看護師、医療職、事務職の、ちょうど今のDMATに相当する体制に組んで、組織的に順次派遣しました。東北の震災は津波被害が主でしたが、今回は、揺れによる建物倒壊が広範囲にわたり、熊本地震でも経験した如く、今後の長期的な住居の対策が急務になっています。一方で、集落が散在し、高齢化率も極めて高く、医療を含めた生活基盤整備のニーズは分散し、珠洲市などは現在の居住者が震災前の半分程度とも言われ、復興の将来像をどう描くか行政も苦慮していると思われます。災害ほど急な変化でないにしろ、人口減少と高齢化は、日本全国、都市部以外では、地元の熊本県南も含めて避けて通れない課題です。TSMCに沸く菊陽や大津地区の一人勝ちにならないようにと、迫った知事選の候補者たちも頭を絞っているようですが、医療や介護の需給バランスの将来像を的確に把握し対応を長期的に考えることは私たち医療者にも必要なことと思います。私はこの病院に勤めて7年になりますが、この間、同じ八代市内でも、豪雨災害で無医地区となった坂本などの地域がある一方、新八代駅から当院にかけての田んぼの多くが宅地になり、家屋や低層マンションがあつという間に増えました。高速のインターや新幹線などでの交通の便がよいことあるのですが、駅前にアリーナ建設の話もあり、近い将来、八代市街地と離れた当院周辺は一大住宅地として、子どもも含む人口増地区に変貌するかも知れません。当初は、八代市郊外の、工場立地に近い場所にできた労災病院ですが、今後は、新興地域の中心となって、勤労者を含む住民に優しい病院を目指すことになるかもしれません。一方で、今も椎原診療所への医師派遣も行っていますが、医療過疎地域への支援も含めて、自ら持つ医療リソースをより有効に活用するにはどうしたらよいか、考え続ける必要があります。

私は、普段、昼食は病院で検食のご飯を食べながら、NHKの朝ドラの再放送を見るのが習慣になっています。若い頃、東京の国立小児病院(今の成育医療研究センター)に小児外科の国内留学をしていたころ、ちょうど朝ドラは「おしん」で、医局で先生たちと出前のそばなど食べながらみんなで見ていたのを思い出します。今の朝ドラは最近しばらく暗い展開でしたが、赤ちゃんが生まれて、お母さんとおばあちゃんのわだかまりが解けたところが描かれました。人は、それぞれ背負っているものが異なるとはいえ、憎み合うより微笑み合う方が、戦うより共

に生きる方が、怒るより笑う方が、いいに決まっています。「笑いと治癒力」、という本もありますが、笑い一辺倒にこだわるわけではなく、医療に附加する形で笑いが免疫力を高めるなど体にいいことをしてくれることは周知の事実でもあります。戦いのニュースが後を絶ちませんが、いろいろな枠組みの中で、争いを解決・解消し、みなで前進していく英知を大切にしたいものです。

国民が議論しつつも総意で方向性を見出し一致して前に進もうというのが民主主義国家ですが、その根幹は選挙です。今の日本は、政治にからむいろいろな問題が報道されますが、国民の意識はそれでもどこか冷めていて、投票率の低さもご承知の通りです。お金やポストなどの利権で政治は動くと多くの人が思い、そしてある程度その通りの事実を見せられて、国民は諦め、一方で、それでも日々の生活には影響ないと達観しているところもあるように感じます。私は、高校・大学の頃にかけて、学生運動を間近にみてきました。高校 2 年生の時は、授業時間帯に、高校生と大学生から成る過激派が放送室に乱入占拠し、消火器をぶちまけ、「勉強などしている場合か」というアジテーションの全館放送が流れました。すぐ機動隊が導入されましたが、その後大学に入っても最初の 2 年間はずっと「校舎占拠、ストライキ」で、暇で山ばかり行っていました。彼らのやっていることは暴力的で稚拙な面が大きかったですが、自分たちで何かを変えたいという、あの頃みんなにみなぎっていたエネルギーはどこから来てどこに消えたのでしょうか。関係があるかわかりませんが、その後の四半世紀、日本は急速に成長し、その後また急速に失速しているのはご承知の通りです。

気づけば、7 年院長をしてきました。院長が、しかも一介の「手術馬鹿」が、一人で舵取りをして病院が上手くいく、なんてことはあり得ないことで、私自身考えたこともありません。大げさにいえば国と同じで、みんなで考え、工夫し、また他者をおもんばかりながら提案し、議論のなかで方向を決めて一丸となって進む、それが理想的な組織の形だと思っています。そんなことを思いながら 7 年やってきましたが、もうすぐそれが終わるところまでできました。あまり実になって残っていることはありませんが、目には見えない、職員の意識や地域のみなさんへの印象が少しでも良い方向をむいているとすれば本望です。まだ 2 ヶ月弱、任期は残っています。退職後はいくらでも休めるので、有給休暇はとらずに目一杯勤めます。

もうすぐ春です。これからも、熊本労災病院をよろしく願いいたします。